

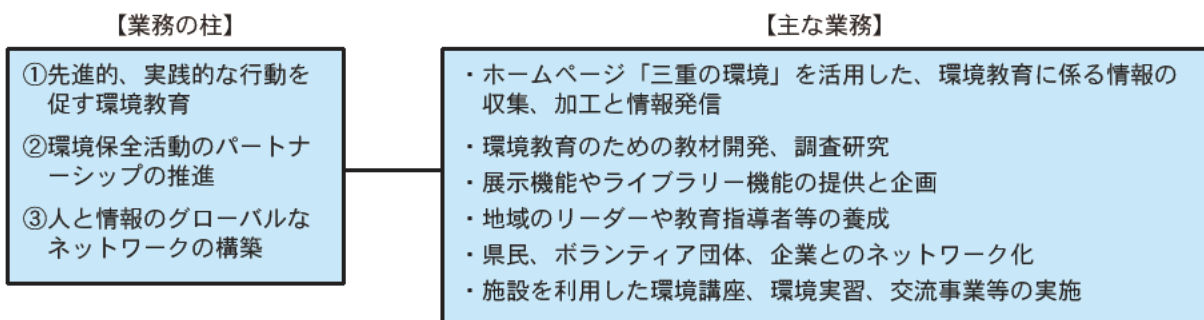
第1節 環境教育・学習の推進

1 環境教育・学習の拠点整備

1-1 三重県環境学習情報センターの充実

県民に開かれた環境教育・学習・情報受発信の拠点として研修機能、情報提供、展示啓発機能等を整備し、子どもから大人まで幅広く利用できる施設として充実に努めています。

図4 1 1 三重県環境学習情報センターでの環境教育に関する主な業務内容



1-2 地域にある環境資源を活かした環境教育施設の整備

(1) 宮川流域エコミュージアム事業の推進

宮川流域ルネッサンス事業における「人と自然の共生」のシンボルプロジェクトである宮川流域エコミュージアムを宮川流域14市町村で地域の住民と協働して推進を図りました。

宮川流域エコミュージアムでは、流域に点在する地域の環境、歴史・文化、暮らし等を体感できる魅力ある空間をフィールドとしてとらえます。

フィールドの成立条件としては、流域の豊かな環境を体感できる「場所」で魅力を伝える「流域案内人」が存在していることを考えており、案内人は知識だけではなく、熱い想いや地域の誇りを伝えます。

また、14市町村連携のシンボルとして、森林の豊かさが、中下流の環境を支えていることを体感できる「ルネッサンスの森」を整備し、水源涵養林として理解を促進し、林業体験、環境学習等の場として活用しました。

(2) ビジターセンターの整備

ビジターセンター（博物展示施設）では、自然公園の地形、地質、動物、植物、歴史等を公園利用者が容易に理解できるよう解説又は実物標本、模型、写真、映像、図表などを用いた展示を行っています。

表4 1 1 ビジターセンター一覧表

自然公園名	施設名	所在地
伊勢志摩国立公園	鳥羽ビジターセンター	鳥羽市
	登茂山ビジターセンター	大王町
	横山ビジターセンター	阿児町
鈴鹿国定公園	藤原岳自然科学館	藤原町

2 環境教育・学習の充実

2-1 学校・社会における環境教育・学習の推進

(1) 環境教育・学習の推進

三重県では、三重県環境教育基本方針に基づき、三重県環境学習情報センターを環境学習基幹施設として、環境教育・学習を推進するとともに、学校教育・社会教育の場においても、環境教育・学習を推進し、環境月間行事・緑化運動などを通じて、環境保全思想の普及啓発に努めています。

これらの事業の推進には、三重県の環境保全を

図ることを目的に平成2（1990）年3月に設立した「三重県環境保全基金」の運用益等を活用しています。

表4 1 2 環境教育・学習の状況（平成15年度）

区 分	内 容
参加型環境学習講座の開催	環境学習情報センタにおいて「水質チェック教室」、「ごみ・リサイクル講座」や夏休みの親子向け講座など50講座以上を開講しました。
環境教育教材の貸出	環境啓発用パネルや、環境学習用キットの貸出しをしました。
環境教育指導者の養成	環境学習指導者養成講座として「プロジェクトワイルド(米国の環境教育指導法)エデュケタ養成講座」、「インタプリタ養成講座」、「みえ環境学習セミナー」などを開講しました。また、指導者養成講座の修了者を対象に「環境教育指導者養成実践講座」を開講しました。
そ の 他	市町村等が実施する環境フェア等への啓発パネル等の貸出や出展参加を行いました。県内小中高等学校等の社会見学受入れや環境体験教育を150回以上実施しました。

(2) こどもエコクラブ活動

こどもエコクラブ活動は、次世代を担う子どもたちの将来にわたる環境保全への高い意識を醸成し、環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築するため、平成7（1995）年6月から環境省により始められました。県内でも環境の保全に関する取組を行う意志を有する小学生、中学生が、それぞれの地域でこどもエコクラブを結成し、環境に対する理解を深めるための学習・研究活動や美化活動、リサイクル活動などの実践運動に積極的に取り組んでいます。

こうしたこどもエコクラブ活動を定着させるとともにその活用をさらに推進するため、各クラブのメンバー・サポーターを対象とした交流会や活動を支えるサポーター・市町村担当職員を対象とした研修会を開催するなどこどもエコクラブ活動を支援しています。

平成15（2003）年度は、275団体7,035人となり会員数・加入率とも3年連続で日本一となりました。

表4 1 3 交流会、研修会の実施状況

区 分	期 日	内 容
こどもエコクラブ市町村担当者研修会	平成15年5月14・15日	サポタ、リダ研修 参加者42人
Mieちびっこエコ王国大会	平成15年7月31日・8月1日	環境体験学習など 参加者6,300人 (こどもかんきょう体感フェア2003と同時開催)
こどもエコクラブ県内交流会 in 玉城	平成15年10月26日	環境体験学習や活動発表 (玉城町で開催) 参加者250人

(3) 身近な環境問題への取組の推進

県内の小・中・高等学校及び盲・聾・養護学校では、身近な地域の環境問題の学習や豊かな自然環境のなかでの様々な体験活動を通して、自然の大切さを学ぶとともに、家庭・地域社会や民間団体との連携を深め、環境保全に関するボランティア活動などを進めています。

ア 「学校環境デー」の実施

県内の全学校で一斉活動日「学校環境デー」（6月5日）を設定し、各学校が創意工夫した活動を行うことを通じて環境教育に取り組む気運をさらに高め、よりよい環境づくりや環境に配慮した望ましい行動がとれる児童生徒の育成を図っています。

イ ISO14001認証維持への取組

平成13年度に2校、平成14年度に6校の県立学校が認証を取得し、平成15年度は外部審査機関による定期審査を受け、8校全てが認証を維持しました。

2-2 自然とのふれあいや実践活動を通じた環境教育・学習の推進

「緑のNPO活動支援センター」では、県内のNPOからの要望や相談事項等を受け、29団体に専門的な技術アドバイスをするとともに、活動内容をイベント情報紙に掲載しました。

また、従来型の官主導型から民主導型への自立した緑のネットワークシステムを確立するため、平成15（2003）年2月12～19日にかけて県内7地区（四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、尾鷲、伊賀）において地域交流会を行うとともに、平成15（2003）年3月16日にNPO交流会の県大会を開催しました。新たな民間主導のネットワークは、特定非営利活動法人「緑のネットワークみえ・自然環境創造協会」として、38団体234名のネットワ

ークとして組織化されました。

2-3 自然観察指導員の育成

平成15（2003）年9月5日～7日に講習会を実施し、県内で52名の自然観察指導員を養成しました。県民一人ひとりが自然保護の精神を身につけ、次世代へ美しい豊かな自然環境を継承できるよう自然保護教育活動の推進と自然保護思想の普及を図りました。

2-4 環境教育に係る情報ネットワークづくり

環境教育を効果的かつ円滑に推進していくため、人材データベースとして、「地球環境を伝える人」をインターネットで提供し、環境教育に関する情報の周知を図りました。